

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2290500061		
法人名	一般社団法人のどか		
事業所名	グループホームのどかの家熱海		
所在地	静岡県熱海市泉415-169		
自己評価作成日	令和4年11月18日	評価結果市町村受理日	令和5年3月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2290500061-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2290500061-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階
訪問調査日	令和 4 年 12 月 22日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・施設に入居する前の暮らしや、習慣の楽しみ方が続けられるような環境作りを心掛け、自分らしく暮らせるよう支援している。  
 ・今年度は新型コロナウイルスの影響で運営推進会議を中止しているが、ご家族・行政・地域住民には2か月一度報告書を郵送し、何か意見があればFAX・メールでやり取りできる体制をとっている。  
 ・新型コロナウイルスの影響で地域行事が中止になり外出も難しいが、その分施設内でできる行事を計画し、実行している。週3回(火・木・土)レクの日を設け、習字や音読、体操など行っている。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は周りを自然に囲まれた閑静な場所にあり、季節の移り変わりが感じられる環境であるが、駅や商業施設から少し離れたところにあるため、職員の採用に苦慮している。対策として駅の近くに駐車場を借り、職員を駅に送迎したり、勤務時間を職員の希望に合わせてたりと働きやすい環境作りを力を入れている。感染症防止に1日5回消毒をし、こまめに掃除をしている。外出が思うようにできないので、体操や塗り絵、計算をしてもらったり、運動会、クリスマス会、お茶会等のイベントを充実させ、車中ドライブも行っている。職員研修は職員が持ち回りで企画をし、看護師や管理栄養士に依頼して毎月行われている。協力医は内科と皮膚科の往診があり、法人の看護師が週に1日勤務しているので相談や治療ができ、職員も安心して業務に取り組んでいる。運営推進会議では意見が多数寄せられている。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念はいつでも確認できるようにリビングに掲げ共有している。食事・入浴・排泄について具現化したマニフェストがあり、実践につなげている。	理念は「そっと寄り添い、共に寄り添う」で実践にむけて具体的な「マニフェスト」を作成し、掲示し、新人研修やその他勉強会で確認して理念を共有し実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染予防の為運営推進会議は実施できていないが、2か月に1度、事故報告や研修報告、お客様の日常の様子、行事等に参加された様子などを報告書にまとめて近所の方にお渡しし、お客様の状況を把握して頂いている。	自治会に加入し、事業所のおたよりを回覧板で公表、周知してもらい、地域の情報も得ている。運営推進会議の議事録は自治会長や近所の住民に届けて意見をもらっている。コロナ前は自治会の行事に職員と利用者が参加していた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症キャラバンメイトの職員による認知症サポーター養成講座を地域施設や住民・小学生向けに行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染予防の為、書面開催とし、事故報告や研修報告、お客様の様子などを報告書にまとめ、郵送している。その際、意見書を添付し、頂いた意見等は次の報告書にて公開し返答するシステムをとっている。頂いた意見等はその都度職員に周知し、サービス向上に活かしている。	運営推進会議は今年度は2か月に1回、書面開催をしている。毎回会議内容と返信用書類を郵送し、家族や地域住民、行政や包括支援センターから意見が届いている。頂いた意見は職員も目を通して運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	新型コロナウイルス感染予防の為運営推進会議は実施できていないが、書面にて事故報告や研修報告、お客様の様子などを報告書にまとめ、市町村担当者に郵送している。生活保護受給者の担当者には、毎月の手紙とお便りを郵送し、お客様の様子を伝えている。	行政、地域包括支援センターの職員とは運営推進会議の意見を聴取したり、運営での疑問点を質問するなど入居者の紹介や相談のやり取りをしている。市の施設部会に席があるがコロナ禍で現在活動は自粛されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に2回身体拘束に関する勉強会を開催し身体拘束について理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。またNGワードについて把握し、言葉による拘束についても意識している。2ヶ月に1度ご家族や関係者に送付している報告書にも身体拘束について該当者がいない旨を記載し、取り組みを報告している。	指針とマニュアルは整備され、委員会のメンバーは管理者、計画作成者、職員の4人で2か月に1回委員会を開催している。研修は年に2回行われ、身体拘束の基本的なこととチェックリストを利用して身体拘束をしないケアの確認を行い、実践に活かしている。	

静岡県(グループホームのどかの家熱海)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会を開き、高齢者虐待について自己チェックシートを用いて、日頃のケアを振り返り施設内での虐待防止に努めている。また虐待防止マニュアルを施設内に設置し周知している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に勉強会を開き、成年後見制度について理解を深めている。また利用者様で実際に成年後見人が付いている方や、今後つく可能性のある方を例に実践的に理解するよう心掛けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、お客様やご家族の不満や疑問点を伺い、十分な理解・納得を得たうえで締結するようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設単位では玄関口への意見箱の設置や、2か月に1度送付している報告書に添付した意見書にて地域及び関係者・家族の意見・要望を伺い、運営に反映させている。法人としては「お客様満足度アンケート」を行い、その結果をもとに具体的な改善計画を作成し反映させている。	毎月全体のお便りと、利用者の担当者が記入した個別のお便り、健康状態の報告を家族に送付している。法人で年に1回「お客様満足度アンケート」を取り、結果を受けて改善計画を作成し、運営に反映させている。運営推進会議が書面開催になり、家族意見が多数届くようになった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度の全体会議や定期的に行われるフロア会議にて、職員は意見や提案を管理者に伝える機会がある。日頃のケアに向ける問題点や疑問点もその都度相談しやすい環境にあり、互いの意見を尊重し合いながら施設運営に反映することが出来ている。	法人で年に1回、職員の自己評価を基に管理者との面談が行われている。管理者は介護職を兼務しているので仕事内で職員とコミュニケーションを都度とっており、職員には利用者のフェイスシートやアセスメントを注視して情報共有ができるよう声掛けをしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価・成果評価の二つの人事考課を導入して、管理者や職員個人の努力や実績、勤務状況を把握し、能力給として反映することで向上心を持って働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時研修、二年目研修、若手研修、ベテラン研修、管理者研修といった各々のキャリア能力に合わせた研修を設けている。オンラインを利用したりリモート研修システムを導入し、新型コロナウイルス感染予防対策を行いながら研修を受ける機会を確保できている。		

静岡県(グループホームのどかの家熱海)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入し、協会主催の研修等に参加している。また、地域の事業所連絡にも参加し情報交換等を行っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には管理者と本人が面談をし、不安に思っていることや要望等を聞くことで、入居に対する不安を軽減するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には管理者、計画作成担当者が家族と面談をし、要望等を聞くことで、入居に対する不安を軽減し、要望にも出来る限り応えるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人が何を希望しているのか、どんな支援が必要かを入居前情報にて確認し、再度本人や家族と確認しあって、その方に合うサービス提供が出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	普段の生活の中で本人が出来ることは自分で行って頂き、共同生活・集団生活を意識して生活して頂けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には家族と本人の過ごす時間を大切に、家族より本人の為にやりたいこと・やって欲しいこと等の要望があれば、できる限り支援に反映している。また、新型コロナウイルスの影響で、面会に来づらいご家族向けにLINEを利用したオンライン面会の案内し、希望があればビデオ通話にて面会できる形にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人から馴染みの場所に行きたいという要望があればできる限り対応するように努めている。本人の馴染みの知人からの面会希望があれば、できる限り対応している。また、新型コロナウイルスの影響で、面会に来づらい後見人の方などにLINEを利用したオンライン面会の案内し、希望があればビデオ通話にてお客様と面会できる形にしている。	希望があれば、散歩や外気浴はすぐに応じて気分転換をしてもらい、1、2階は自由に行き来することができるよう配慮している。家族とは感染に注意しながら面会を継続していて、携帯電話で家族と話をする方もいる。	

静岡県(グループホームのどかの家熱海)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	団欒の場所を提供し、一緒に歌を歌ったり共同作品を作る等、様々な形で利用者同士が関わり合うきっかけ作りをしている。また、生活の中でも利用者同士で食器拭きや洗濯物畳みなどの家事を行って頂き、協力して行えるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後、入所中に撮った写真や行事の掲示物をお渡ししている。その後は特に必要がなければこちらからの取組みはないが、本人・家族からの相談等あれば対応する。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントのみではなく、日頃の会話や様子の変化等にも気を配りその方の希望や意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時に会社独自の様式に情報を記入しアセスメントに力を入れている。職員全員で内容を把握し、足りない情報は日報や口頭で付け加えている。職員は日頃から利用者の表情を観察して希望や意向をつかみ、職員で情報を共有しケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前には本人や家族と面談し、その方の生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境等情報を得るようにしている。これまでのサービス利用の経過については担当ケアマネに情報提供を依頼し把握している。入居後も分からない事があればその都度相談している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりに担当の職員がおり、カンファレンス等で状況を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族に希望や要望等を伺い必要時には主治医や看護師の意見も聞いて担当者会議で共有し、本人・家族の希望を取り入れた介護計画を作成している。	介護計画書の更新時に担当者会議を行っている。モニタリングは3か月に1回、計画作成者が行き、カンファレンスは変化がある利用者から毎月の会議で行っている。また、変化があった時には会議を待たず、勤務している職員でカンファレンスを行い、記録して他の職員にも共有できるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録や日報、申し送りにて日々の様子や状況の変化について共有しケアの実践や介護計画の見直しに活かしている。		

静岡県(グループホームのどかの家熱海)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	誕生日にお店の餃子が食べたいという利用者の為に餃子を予約注文しテイクアウトして提供したり、外出したり散歩がしたい利用者をドライブに連れていく等、本人の「〇〇したい」に柔軟に応えられるよう取組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	2ヶ月に1度、事故報告やお客様の日常の様子、行事等に参加された様子などを報告書にまとめて地域の方にお渡しし、施設や利用者について理解していただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の全員往診の他、皮膚科往診、状態に変化がある場合や緊急時には24時間相談できる環境にあり指示を仰いでいる。必要に応じて他科受診対応も行っている。また、毎月の往診・受診報告を家族に手紙と一緒に送っている。	全利用者が月2回協力医の往診を受け、皮膚科の往診も月1回ある。協力医とは利用者の体調について24時間対応で相談ができ、他科の症状についても相談ができる。法人の看護師も週1回勤務しているので相談ができる。歯科の往診も定期的であり、口腔ケアも受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を週1回配置し健康管理を行っている。看護記録にて介護職員との情報の共有を行い、急な体調変化が起きた際も看護師に連絡し指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	着替えの交換などで面会に行き、本人の状態の把握に努め安心して治療ができ、早期退院できるよう支援している。また、退院後の生活について相談等行い施設に戻られても安心した生活が送れるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期について施設の指針を説明し同意を得ている。状態の変化に応じて主治医より本人、家族への説明を行った上で職員や関係者で終末期に向けた方針を決め取組んでいる。	入居時に事業所の指針を説明し、重度化や終末期についての同意と「ターミナルケア依頼書兼終末期宣言書」をもらい、定期的に再確認をしている。重度化、終末期には家族は医師より説明を受け、事業所は家族の意向を再確認して支援に努めている。看取りの研修は年1回看護師より受け、グリーンケアについても学んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを常備しており、いつでも確認できる。防災訓練や勉強会を通して職員のスキルアップを図っている。新型コロナウイルス感染発生時の対応に関しても実際に感染者が出た想定で訓練を行い、全員が防護具の着用や対応方法を学び、実践力を身に付けた。		

静岡県(グループホームのどかの家熱海)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回防災訓練を実施している。また、地震想定訓練と水害(土砂災害)の訓練を11月に実施し、ハザードマップで避難経路の確認や実際の避難誘導法を確認し合った。ともに訓練終了後は書面にて訓練の内容を地域の方々に報告し、改善点等あれば意見をいただき、できる限りで災害時対応マニュアルに反映している。	昨年度、伊豆山の災害時には行政や近所の人々が心配して声を掛けてくれた。今年度の大雨時には体育館に避難し、その後、ホテルに移り、移動には自治会長も手伝ってくれ、行政職員とも連携をとる事ができた。避難訓練は年2回行われ、備蓄も整備されている。	実際に避難を経験し、必要な物の選別が出来ようになり、声かけの手順がBCP通りに行かなかった等課題が見つかったので、整理をして、今後の災害対策に活かせるよう期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様と同じ目線で話し、耳が遠い方には耳元でゆっくり丁寧に話すようにし、その人その人に合った対応、言葉かけをしている。またトイレ介助やおむつ交換の際はドアを閉め、プライバシーに配慮した対応をしている。	プライバシー、接遇の研修は年1回実施している。研修後、職員はレポートの提出を行い、日々のケアに活かせるようにしている。管理者は課題のある職員に対して個別に注意している。耳の遠い利用者に耳元で話したり、ジェスチャーや紙に書いたり工夫している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	誕生日に食べたい物など希望を聞き用意して食べて頂いたり、レクリエーションで習字を行う際は複数ある中から書きたい文字を選んで頂くなど、希望の表出や自己決定ができるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日中ご自分のタイミングで散歩に行かれる方には職員が同行し対応したり、洗濯物をご自分で干したい方には洗濯ばさみやハンガーをお貸ししてご自分で干していただくなど、一人ひとりのペースや希望になるべく沿って支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に1度訪問美容室に来て頂きカットやカラーリングをして頂いている。外出や行事の際は季節に合ったおしゃれな服を選べるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事形態や禁食の把握はもちろん、嫌いなものは別のものに変え提供する等個々にあった対応をしている。また野菜の皮むきや料理の配膳等利用者様の出来ることを手伝って頂き、利用者様と職員と一緒に食事の準備をしている。	法人より利用者のケアに力を注ぐようにと指示を受け、湯煎の食事形態を1年前より取り入れた。利用者からは「おいしい」といわれている。お楽しみ食も取り入れ、利用者の希望で鰻、ネギトロ、おやつレクも行っている。利用者のできる範囲で手伝ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分が摂りにくい利用者様には、水分を飲んで頂いてから食事を召し上がって頂くよう声掛けをしたり、その方の飲みやすいもので補給して頂くようにしている。食事摂取量が少ない方には栄養剤を食事代わりに飲んで頂くなど、栄養が不足しないよう努めている。		

静岡県(グループホームのどかの家熱海)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期的な訪問歯科の往診により口腔内の健康に気を付けている。食後は自分で出来る方は自分で歯磨きを行っており、磨き残しのある方や介助の必要な方は職員が介助している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて個々の排泄パターンを把握し時間の間隔を開けないことで、排泄の失敗やおむつの使用を減らしている。夜間おむつの方も日中はトイレ誘導しトイレで排泄できるよう支援している。	利用者個々の排泄パターンを「排泄チェック表」で把握して日中はトイレでの排泄を支援している。自立でトイレへ行ける人は見守り、夜間はポータブルトイレを使用したりトイレへ行ける人はできるだけトイレの使用を継続し、日中2人介助でトイレ支援をしている人は夜間はおむつを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食の前に野菜ジュースや牛乳を飲んでいただき腸の働きを良くしたり、腹部マッサージを行う等個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者一人ひとりが入りたいと思う時間を聞いたり、入りたくない方は別の日にする等、一人一人の希望やタイミングにできるだけ対応している。菖蒲湯やゆず湯等、季節を感じて頂きながら入浴を楽しんで頂く支援をしている。	木曜日以外毎日、入浴できる準備をし、利用者の希望の時間に浴うようにしている。入浴剤や季節の湯を使って楽しんでもらえるように工夫している。拒否が強い場合は無理強いをせず、タイミングや人を変えて入浴を楽しめるよう心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、なるべく活動し夜ぐっすり眠れるよう支援している。食後や体操の後横になりたい方は居室で休んで頂く等適度に昼寝の時間も取り入れている。また、夜眠れない方には温かい飲み物を飲んで頂く工夫もしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別ファイルに薬の説明書をファイリングし、薬の目的や副作用、用法や用量について把握している。また、薬の事故防止の為、配薬・服薬時には職員2名にて確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴の中で、散歩が好きな方には散歩をしていただいたり、絵を描くことを趣味とする方には好きな時に好きなように描いて頂くなど、一人ひとりが張り合いや喜びのある生活が送れるよう支援している。		



静岡県(グループホームのどかの家熱海)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な散歩では、天気の良い日は少し遠くまで歩き花を摘んだりして自然を感じて頂いている。新型コロナウイルス感染予防の為観光地などへの外出はできていないが、時には最寄り駅まで職員とともにドライブに行かれ、窓から眺める景色を楽しんで頂いている。	事業所近くを散歩したり、洗濯物を一緒に干しながら外気浴をしている。利用者の「外に行きたい」という希望には、極力応じるようにし、職員が用事で車を使う時に1～2名の利用者に声をかけて車中ドライブをしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の管理能力を考え可能な方は、お金を所持して頂き出かけた際の支払いをして頂いている。また、普段は本人が所持していない場合でも買物に出掛けた際、支払の時に本人にお金を渡し支払いをして頂くこともある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人からの電話や手紙の取次はいつでも行っている。本人自らの希望により手紙を書いていただくこともある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然に囲まれている為、窓からの採光も眺めも良く、外を見て季節を感じて頂ける。リビングはテレビやソファを置きゆったりくつろげる空間となっている。トイレ、風呂場は利用者が分かりやすいよう配慮し、毎日掃除を行い清潔に心掛けている。	自然に恵まれた環境なので、窓から見える景色で四季の移り変わりがわかる。利用者の多くは日中、居間で過ごし、掃除は利用者にも手伝ってもらっている。手すり、ドアノブ等の消毒は1日5回行い、換気は利用者気づかれない窓を開けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方同士の座席の配置等工夫している。また、1階と2階はいつでも行き来出来る環境にある。リラックスしたい方はソファで過ごされるなど、それぞれ思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人の使い慣れた馴染みの物を持ち込んで頂き、安心して暮らして頂けるよう心掛けている。また、家族との写真を飾られている方や好きなお花や絵を飾られている方もおり本人が心地よく過ごせるよう工夫している。	居室にはエアコン、ベッド、クローゼットが備えられ、避難用ヘルメットも万一来に備えて、衣類かけに準備されている。自宅から衣類ケース、家族の写真を持ち込んだり、散歩で摘んできた野の花を瓶に飾ったり、裁縫箱を借りて衣類の繕いをする方もいる。季節の入れ替えは担当職員が行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内での行動を制限しない為に万が一転んでも、大事に至らないよう床にクッション性のあるマットを敷く等工夫している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2290500061		
法人名	一般社団法人のどか		
事業所名	グループホームのどかの家熱海		
所在地	静岡県熱海市泉415-169		
自己評価作成日	令和4年11月18日	評価結果市町村受理日	令和5年3月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=2290500061-00&ServiceCd=320&Type=search](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2290500061-00&ServiceCd=320&Type=search)

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 4 年 12月 22日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・施設に入居する前の暮らしや、習慣の楽しみ方が続けられるような環境作りを心掛け、自分らしく暮らせるよう支援している。  
 ・今年新型コロナウイルスの影響で運営推進会議を中止しているが、ご家族・行政・地域住民には2か月一度報告書を郵送し、何か意見があればFAX・メールでやり取りできる体制をとっている。  
 ・新型コロナウイルスの影響で地域行事が中止になり外出も難しいが、その分施設内でできる行事を計画し、実行している。週3回(火・木・土)レクの日を設け、習字や音読、体操など行っている。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念はいつでも確認できるようにリビングに掲げ共有している。食事・入浴・排泄について具現化したマニフェストがあり、実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染予防の為運営推進会議は実施できていないが、2か月に1度、事故報告や研修報告、お客様の日常の様子、行事等に参加された様子などを報告書にまとめて近所の方にお渡しし、お客様の状況を把握して頂いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症キャラバンメイトの職員による認知症サポーター養成講座を地域施設や住民・小学生向けに行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染予防の為、書面開催とし、事故報告や研修報告、お客様の様子などを報告書にまとめ、郵送している。その際、意見書を添付し、頂いた意見等は次の報告書にて公開し返答するシステムをとっている。頂いた意見等はその都度職員に周知し、サービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	新型コロナウイルス感染予防の為運営推進会議は実施できていないが、書面にて事故報告や研修報告、お客様の様子などを報告書にまとめ、市町村担当者に郵送している。生活保護受給者の担当者には、毎月の手紙とお便りを郵送し、お客様の様子を伝えている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に2回身体拘束に関する勉強会を開催し身体拘束について理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。またNGワードについて把握し、言葉による拘束についても意識している。2ヶ月に1度ご家族や関係者に送付している報告書にも身体拘束について該当者がいない旨を記載し、取り組みを報告している。		

静岡県(グループホームのどかの家熱海)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会を開き、高齢者虐待について自己チェックシートを用いて、日頃のケアを振り返り施設内での虐待防止に努めている。また虐待防止マニュアルを施設内に設置し周知している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に勉強会を開き、成年後見制度について理解を深めている。また利用者様で実際に成年後見人が付いている方や、今後つく可能性のある方を例に実践的に理解するよう心掛けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、お客様やご家族の不満や疑問点を伺い、十分な理解・納得を得たうえで締結するようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設単位では玄関口への意見箱の設置や、2か月に1度送付している報告書に添付した意見書にて地域及び関係者・家族の意見・要望を伺い、運営に反映させている。法人としては「お客様満足度アンケート」を行い、その結果をもとに具体的な改善計画を作成し反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度の全体会議や定期的に行われるフロア会議にて、職員は意見や提案を管理者に伝える機会がある。日頃のケアに向ける問題点や疑問点もその都度相談しやすい環境にあり、互いの意見を尊重し合いながら施設運営に反映することが出来ている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価・成果評価の二つの人事考課を導入して、管理者や職員個人の努力や実績、勤務状況を把握し、能力給として反映することで向上心を持って働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時研修、二年目研修、若手研修、ベテラン研修、管理者研修といった各々のキャリア能力に合わせた研修を設けている。オンラインを利用したりリモート研修システムを導入し、新型コロナウイルス感染予防対策を行いながら研修を受ける機会を確保できている。		

静岡県(グループホームのどかの家熱海)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入し、協会主催の研修等に参加している。また、地域の事業所連絡にも参加し情報交換等を行っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には管理者と本人が面談をし、不安に思っていることや要望等を聞くことで、入居に対する不安を軽減するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には管理者、計画作成担当者が家族と面談をし、要望等を聞くことで、入居に対する不安を軽減し、要望にも出来る限り応えるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人が何を希望しているのか、どんな支援が必要かを入居前情報にて確認し、再度本人や家族と確認しあって、その方に合うサービス提供が出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	普段の生活の中で本人が出来ることは自分で行って頂き、共同生活・集団生活を意識して生活して頂けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には家族と本人の過ごす時間を大切に、家族より本人の為にやりたいこと・やって欲しいこと等の要望があれば、できる限り支援に反映している。また、新型コロナウイルスの影響で、面会に来づらいご家族向けにLINEを利用したオンライン面会の案内し、希望があればビデオ通話にて面会できる形にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人から馴染みの場所に行きたいという要望があればできる限り対応するように努めている。本人の馴染みの知人からの面会希望があれば、できる限り対応している。また、新型コロナウイルスの影響で、面会に来づらい後見人の方などにLINEを利用したオンライン面会の案内し、希望があればビデオ通話にてお客様と面会できる形にしている。		

静岡県(グループホームのどかの家熱海)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	団欒の場所を提供し、一緒に歌を歌ったり共同作品を作る等、様々な形で利用者同士が関わり合うきっかけ作りをしている。また、生活の中でも利用者同士で食器拭きや洗濯物畳みなどの家事を行って頂き、協力して行えるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後、入所中に撮った写真や行事の掲示物をお渡ししている。その後は特に必要がなければこちらからの取組みはないが、本人・家族からの相談等あれば対応する。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントのみではなく、日頃の会話や様子の変化等にも気を配りその方の希望や意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前には本人や家族と面談し、その方の生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境等情報を得るようにしている。これまでのサービス利用の経過については担当ケアマネに情報提供を依頼し把握している。入居後も分からない事があればその都度相談している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりに担当の職員がおり、カンファレンス等で状況を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族に希望や要望等を伺い必要時には主治医や看護師の意見も聞いて担当者会議で共有し、本人・家族の希望を取り入れた介護計画書を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録や日報、申し送りにて日々の様子や状況の変化について共有しケアの実践や介護計画の見直しに活かしている。		

静岡県(グループホームのどかの家熱海)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	誕生日にお店の餃子が食べたいという利用者の為に餃子を予約注文しテイクアウトして提供したり、外出したり散歩がしたい利用者をドライブに連れていく等、本人の「〇〇したい」に柔軟に応えられるよう取組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	2ヶ月に1度、事故報告やお客様の日常の様子、行事等に参加された様子などを報告書にまとめて地域の方にお渡しし、施設や利用者について理解していただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の全員往診の他、皮膚科往診、状態に変化がある場合や緊急時には24時間相談できる環境にあり指示を仰いでいる。必要に応じて他科受診対応も行っている。また、毎月の往診・受診報告を家族に手紙と一緒に送っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を週1回配置し健康管理を行っている。看護記録にて介護職員との情報の共有を行い、急な体調変化が起きた際も看護師に連絡し指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	着替えの交換などで面会に行き、本人の状態の把握に努め安心して治療ができ、早期退院できるよう支援している。また、退院後の生活について相談等行い施設に戻られても安心した生活が送れるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期について施設の指針を説明し同意を得ている。状態の変化に応じて主治医より本人、家族への説明を行った上で職員や関係者で終末期に向けた方針を決め取組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを常備しており、いつでも確認できる。防災訓練や勉強会を通して職員のスキルアップを図っている。新型コロナウイルス感染発生時の対応に関しても実際に感染者が出た想定で訓練を行い、全員が防護具の着用や対応方法を学び、実践力を身に付けた。		

静岡県(グループホームのどかの家熱海)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回防災訓練を実施している。また、地震想定訓練と水害(土砂災害)の訓練を11月に実施し、ハザードマップで避難経路の確認や実際の避難誘導法を確認し合った。ともに訓練終了後は書面にて訓練の内容を地域の方々に報告し、改善点等あれば意見をいただき、できる限りで災害時対応マニュアルに反映している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様と同じ目線で話し、耳が遠い方には耳元でゆっくり丁寧に話すようにし、その人その人に合った対応、言葉かけをしている。またトイレ介助やおむつ交換の際はドアを閉め、プライバシーに配慮した対応をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	誕生日に食べたい物など希望を聞き用意して食べて頂いたり、レクリエーションで習字を行う際は複数ある中から書きたい文字を選んで頂くなど、希望の表出や自己決定ができるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日中ご自分のタイミングで散歩に行かれる方には職員が同行し対応したり、洗濯物をご自分で干したい方には洗濯ばさみやハンガーをお貸ししてご自分で干していただくなど、一人ひとりのペースや希望になるべく沿って支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に1度訪問美容室に来て頂きカットやカラーリングをして頂いている。外出や行事の際は季節に合ったおしゃれな服を選べるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事形態や禁食の把握はもちろん、嫌いなものは別のものに変え提供する等個々にあった対応をしている。また野菜の皮むきや料理の配膳等利用者様の出来ることを手伝って頂き、利用者様と職員と一緒に食事の準備をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分が摂りにくい利用者様には、水分を飲んで頂いてから食事を召し上がって頂くよう声掛けをしたり、その方の飲みやすいもので補給して頂くようにしている。食事摂取量が少ない方には栄養剤を食事代わりに飲んで頂くなど、栄養が不足しないよう努めている。		



静岡県(グループホームのどかの家熱海)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期的な訪問歯科の往診により口腔内の健康に気を付けている。食後は自分で出来る方は自分で歯磨きを行っており、磨き残しのある方や介助の必要な方は職員が介助している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて個々の排泄パターンを把握し時間の間隔を開けないことで、排泄の失敗やおむつの使用を減らしている。夜間おむつの方も日中はトイレ誘導しトイレで排泄できるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食の前に野菜ジュースや牛乳を飲んでいただき腸の働きを良くしたり、腹部マッサージを行う等個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者一人ひとりが入りたいと思う時間を聞いたり、入りたくない方は別の日にする等、一人一人の希望やタイミングにできるだけ対応している。菖蒲湯やゆず湯等、季節を感じて頂きながら入浴を楽しんで頂く支援をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、なるべく活動し夜ぐっすり眠れるよう支援している。食後や体操の後横になりたい方は居室で休んで頂く等適度に昼寝の時間も取り入れている。また、夜眠れない方には温かい飲み物を飲んで頂く工夫もしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別ファイルに薬の説明書をファイリングし、薬の目的や副作用、用法や用量について把握している。また、薬の事故防止の為、配薬・服薬時には職員2名にて確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴の中で、散歩が好きな方には散歩をしていただいたり、絵を描くことを趣味とする方には好きな時に好きなように描いて頂くなど、一人ひとりが張り合いや喜びのある生活が送れるよう支援している。		

静岡県(グループホームのどかの家熱海)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な散歩では、天気の良い日は少し遠くまで歩き花を摘んだりして自然を感じて頂いている。新型コロナウイルス感染予防の為観光地などへの外出はできていないが、時には最寄り駅まで職員とともにドライブに行かれ、窓から眺める景色を楽しんで頂いている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の管理能力を考え可能な方は、お金を所持して頂き出かけた際の支払いをして頂いている。また、普段は本人が所持していない場合でも買物に出掛けた際、支払の時に本人にお金を渡し支払いをして頂くこともある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人からの電話や手紙の取次はいつでも行っている。本人自らの希望により手紙を書いていただくこともある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然に囲まれている為、窓からの採光も眺めも良く、外を見て季節を感じて頂ける。リビングはテレビやソファを置きゆったりくつろげる空間となっている。トイレ、風呂場は利用者が分かりやすいよう配慮し、毎日掃除を行い清潔に心掛けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方同士の座席の配置等工夫している。また、1階と2階はいつでも行き来出来る環境にある。リラックスしたい方はソファで過ごされるなど、それぞれ思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人の使い慣れた馴染みの物を持ち込んで頂き、安心して暮らして頂けるよう心掛けている。また、家族との写真を飾られている方や好きなお花や絵を飾られている方もおり本人が心地よく過ごせるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内での行動を制限しない為に万が一転んでも、大事に至らないよう床にクッション性のあるマットを敷く等工夫している。		